

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径

1月号

2012  
JANUARY  
No.39

今月のこぼ

## 1年の計は元日にあり

1年の計画は年の始めの元旦（元旦）に立てることが大切という意味から、何事も最初の計画が重要であるという趣旨。「1年の計は春の耕にあり」ともいう。

今月の記念日

## 七草粥の日（1月7日）

春の七草（セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ（カブ）、スズシロ（大根））を入れて作った粥を食べて、正月のご馳走やお酒などで疲れた胃をいたわるといわれる。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

今月の  
テーマ

## 「学力とは何か」にどう答えるか

- わが国ではこれまで「学力とは何か」に対して十分な合意がなされてきませんでした。そのために、多様な学力観が見られました。
- 学校教育法に規定された学力の要素は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力などの能力」「主体的な学習態度」です。ここには「教える学力と育てる学力」が示されています。

## 学力に対する合意がないままに

平成10年版学習指導要領は、学校週5日制の完全実施に対応するため、学習内容が削減され、授業時数が縮減されました。学校教育の器が全体として小さくなったからです。これに対して、学力低下を懸念する声が各方面から出され、社会問題になったことは記憶に新しいところです。

こうした課題を受けて、平成23年度から実施されている学習指導要領では、学習内容が増え、教科によっては授業時数が大幅に増加しました。その結果、学力の低下問題は現在のところ沈静化しています。際立った問題の指摘はありません。これで子どもの学力問題は解決したのでしょうか。

学力低下の問題が指摘されたころ、最も重要な論点が欠落していました。それは「学力とは何か」の確認です。人により立場により、知識や技能に偏重した学力、上級学校に合格する受験学力、読み・書き・算に象徴される学力など、さまざまな「学力観」で語られました。文部科学省から「確かな学力」についての説明はありましたが、

その根拠は必ずしも明確ではありませんでした。

これまでのわが国において「学力とは何か」に対して、国民の間に、あるいは教師の間にも十分な合意が形成されてこなかったことは、ある意味で不幸な時代が続いてきたと言えます。

## 法律に規定された学力観

学力論議に終止符が打たれたのは、平成19年に一部改正された学校教育法です。ここには、学力に関して次のような規定が示されました。

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」（第30条の第2項）

ここには、学力を構成する基本となる要素が明確に示されています。すなわち「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力などの能力」「主体的な学習態度」の三つです。これまで、数値的に測定することが困難だとされてき

た「能力」や「学習態度」も学力の内だとしたことは特記すべき事項です。

このことによって、保護者や子どもたちに対して「学力とは何か」について説明するとき、その拠り所となる根拠が明確になったと言えます。これからは、教師によって異なった学力観で説明することは無くなるでしょう。

## 教える学力と育てる学力

「教育」という文字は「教える」と「育てる」と書きますが、「知識や技能」は教師が丁寧に説明し、教えることによって身につけさせることができます。目に見えやすく、量的な意味合いをもっていることから、学習の結果を評価することも比較的容易です。

日本の教師はこれまでも「教え上手」と言われてきましたから、この面の学力を定着・向上させることに特に新しい問題はないでしょう。

ところが、「能力」や「態度」は教えて身につけさせるというよりも、育てていくものです。成果が目に見えにくく、質的な意味合いをもっていますから、評価にもひと工夫が必要です。思考力をどのように育てるか。意欲ややる気をどう高めるかなど、これらの育て方は、知識や技能の教え方と比べて、その指導方法はまだまだ開発途上です。十分なノウハウがありません。

各学校で、子どもたちに学校教育法に規定された学力が形成されたとき、はじめて学力問題が解決されたと言えるのではないのでしょうか。

# 教えて北先生

## 字が乱暴な子ども

**Q.** 最近、各教科で言語活動の充実が求められていることもあって授業中、ノートに書く機会を多く取っています。文字を丁寧に書くよう指導しているのですが、どうしても乱暴に書く子どもがいます。どのように指導すると、少しずつ丁寧な字を書くことができるようになるのでしょうか。

**A.** 文字を丁寧に書けない子どもには、例えば次のような指導が考えられます。まず、落ち着きのない子どもの場合です。心を落ち着かせ、姿勢をよくして書くようにします。心の乱れが文字にも表れます。書く時間を十分に取ることも大切です。「早く、早く」と追い立てると、どうしても乱暴になりがちです。書きたいことを一度言わせたりメモを取らせたりしてから、改めて書かせる方法もあります。

次に、学年に合った罫目や罫線のノートを使用します。低学年では、大きめの罫目のノートに、一字一字楷書で丁寧に書く習慣をつけます。子どもは教師の一挙手一投足を見えています。教師はモデルです。黒板などには丁寧に書くよう心掛けます。教師が乱暴に書くと、子どもも乱暴になりがちです。

さらに、鉛筆の持ち方に原因がある場合もあります。最近、鉛筆が正しく持てない子どもが多く見られます。家庭での早期の教育も影響しているようです。保護者の協力を得ながら、早い時期に修正させたいものです。



## 教育の動向

### 放射線副読本

文部科学省は、昨年10月に小学生を対象にした『放射線について考えてみよう』というタイトルの副読本を発行しました。これは、平成23年3月1日に発生した東日本大震災によって、東京電力の福島第一原子力発電所で大きな事故が発生し、放射線が放出されたことを受けて編集されたものです。国民の中には、放射線について疑問や不安を抱いている人が少なくありません。これまでの学校教育で放射線について体系的な指導が行われてこなかったためと思われます。

本副読本は、「放射線って、何だろう?」「放射線は、どのように使われているのか?」「放射線を受けると、どうなるのか?」「放射線から身を守るには?」など、放射線についての基礎的な事柄を解説・説明したものです。イラストや写真、図表などを多用して分かりやすく説明されています。

「解説編(教師用)」も同時に発行されています。これには、副読本の活用方法や指導上の留意点とともに、関連する情報が紹介されています。

中学生や高校生のための副読本も同時に発行されました。これらの副読本は、文部科学省のホームページで見ることができます。



## コラム 北先生の授業力向上術

### 授業を開く②

前は、授業を見ていただく、公開することの大切さを述べました。今回は、授業をテープに録り、あとで文字に起こしたり聞いたりする方法です。

私は授業の開始とともに、カセットテープレコーダーのスイッチを入れました。赤いボタンを押すと、一瞬緊張が走ります。できるだけ無駄な言葉を慎み、子どもには発問や指示の内容を吟味して発します。子どもからの反応にも、たとえ意に反した内容であっても好意的に受けとめようとします。

ところが、このように心掛けて行った授業でも、その後聞き返すと、教師の言葉の無駄や配慮のなさに気づかれます。「光る発言」をした子どもに気づかず、その場で生かせなかったことを悔やみます。5分間の作業を指示

しているにもかかわらず、4分程度でストップを掛けていることもあります。せっかちな自分に気づきます。

テープを聞き返すことによって、授業の事実を振り返ることができ、次の課題が見えてきます。また、テープを文字に起こすことによって、同僚や先輩の教師から指導を受けることもできます。これは授業を開くひとつの姿です。

今では、授業の風景をビデオに撮ることができますから、音声とともに映像を記録することができます。

教師の心意気や構えは、教室の出入口のドアを開けておくだけでも変わります。いつ誰が廊下を通るかわかりません。廊下から教室の中を覗かれることもあります。これも、授業を開くというひとつの行為です。授業を常にオープンな状況にしておくことが、授業力を向上させる早道だと言えそうです。

## INFORMATION

若い先生に伝えたい!!

### 子どもの学力をつける学習評価

◎著者 北 俊夫  
◎定価 1,890円  
(本体1,800円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂  
B5判 140ページ



### 言語活動は授業をどう変えるか 一考え方と実践のヒント

◎著者 北 俊夫  
◎定価 998円  
(本体950円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂  
A5判 112ページ



北俊夫先生の  
新刊です!

## 編集後記

本文で紹介されている副読本「放射線について考えてみよう」を一読しました。福島の事故の後には、流言飛語も含めて放射線に関する様々な情報が錯綜しています。それらを正しく読み解くためのサイエンスリテラシー(科学的素養)を磨くには、最適な副読本だと感じました。(H記)



企画・編集: ばんけい教育研究所  
発行: 株式会社文溪堂  
発行日: 2012年1月1日